

知求会ニュース

2023年12月

第88号

◎ 掲載記事紹介

1. 下野新聞（令和5年6月22日）4面に、「外国人生徒の学び場探る」と題して、「宇大・国際学叢書第14巻出版」「12人の専門家共同執筆 編著 佐々木一隆先生 田巻松雄先生」の内容で佐々木一隆先生(国際学部名誉教授)と田巻松雄先生(国際学部名誉教授)の記事が掲載されました。
2. 下野新聞（令和5年8月29日）24面に、「“江戸から令和の公共交通テーマ”」と題して、「来月9日、市民講座」「講師 中村祐司教授」の内容で中村祐司先生(地域創生デザイン科学部教授)の記事が掲載されました。
3. UU now 第57号（令和5年10月20日）2-5頁に、『座談会 特集1 地域の発展をリードする次世代人材を社会へ 2024年4月 データサイエンス経営学部 新説』コーナーにおいて磯谷玲先生(次年度神学部就任予定教員)らの記事が掲載されました。
4. UU now 第57号（令和5年10月20日）11頁に、『Welcome to 研究室&ゼミ』コーナーにおいて高橋若菜先生(国際学部教授)と張喬さん(国際学研究科博士課程3年)・宅美尚汰さん(地域創生科学研究科博士前期課程1年)らの記事が掲載されました。
5. 下野新聞（令和5年11月16日）23面に、「多文化共生を考える」「県内活躍ネパール人登壇」「宇都宮でセミナー」と題して、でダハル・スディプさん(国際交流研究専攻第13期生)の記事が掲載されました。

◎ 国際学部だより

1. 下野新聞（令和5年10月9日）13面に、『ジェンダー未来へ とちぎのこれから』のコーナーで「宇都宮で共同参画推進フォーラム」「活躍できる社会へ方策探る」と題して、伊藤綾音さん(国際学部2年)らの記事が掲載されました。
2. UU now 第57号（令和5年10月20日）11頁に、『Welcome to 研究室&ゼミ』コーナーにおいて高橋若菜先生(国際学部教授)と高橋この葉さん(国際学科4年)・山崎彩貴さん(国際学科4年)・遠藤千智さん(国際学科3年)らの記事が掲載されました。
3. 下野新聞（令和5年11月19日）2面に、「ガザ即時停戦宇都宮で訴え」「とちぎVネットなど」と題して、吉田美音さん(国際学部2年)らの記事が掲載されました。

◎ 研究会開催のお知らせ

第9回重田ゼミ研究会 日時：2023年12月17日（日）13：30～16：50

場所：宇都宮大学 UU プラザ2階

Zoom ミーティング [URL:https://zoom.us/join](https://zoom.us/join)

ミーティング ID：873 0816 4686

パスコード：179922

1. 報告会

1) 重田 康博 (13:35~14:00)

「近況報告と JANIC の THINK Lobby の活動について –タイの国際会議参加など–」

2) 六川彩水 (16 年度/17 年 3 月卒業) (14:00~14:25)

「マダガスカルでの活動–協力隊員報告」

3) ダハル・スティップ (17 年度/18 年 3 月卒業) (14:25~14:50)

「22 年度アユース NGO 新人賞」

「現場で見る農村開発のためのパートナーシップ : シャプラニールのネパール・バン
グラデシュの活動を中心に」

4) ボウ・ショウハク (20 年度/21 年 3 月卒業) (14:50~15:15)

「『質の高い教育』に向けて日本の非営利組織の役割と課題の一考察 –教育におけるジ
ェンダー平等を中心に–」

5) 丸山浩平 (国際学部 4 年生) (15:15~15:40) 「農園タミル若年層の将来への意識」

6) 朱シンレキ (20 年度/21 年 3 月卒業) (15:40~16:05)

中国における貧困削減に関わる宗教系 NGO の支援活動 –『厦門南普陀寺慈善会』の事
例から」 –

2. 参加者近況報告 (16:05~16:45)

研究室訪問 58 第 9 号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いした
コーナーを設けました。

「非自由主義的平和構築のパラドックス :

紛争後の地域における政治的再建」

国際学部 スギット アルジョン

こんにちは、みなさん。私は 2022 年 3 月に国際学部に着任しました。1 年目は「グロ
ーバル・ガバナンス論」や「地球市民社会論」などを担当しました。時間はあっという間
に過ぎました。着任してから 1 年以上が経ちました。この記事では、私が現在行ってい
る研究内容について詳しく説明したいと思います。

現在の研究について詳しく説明する前に、私自身についての背景と、なぜこの現在の研
究に着手したのかについてお話したいと思います。私は小学生の頃から政治学と国際関
係論に強い興味を持っていました。この夢を追い求めるために、私はオーストラリア、
オランダからこの学問を学ぶために世界中を旅し、ついに日本に降り立ちました。私は
学士号を取得して以来、政治学と国際関係を勉強してきましたが、正直に言うと、私の焦
点となる興味は時間の経過とともに変化しました。たとえば、学部時代、私は政治的暴
力や過激主義に興味を持っていました。修士課程では、誘拐事件における NGO やゲリラ

グループの力関係を研究することに傾き、博士課程では、紛争後の政治発展に焦点を移しました。

私の博士課程の研究では、インドネシアの北マルクにおける紛争後の政治的発展を調査しました。なぜ私が紛争後に焦点を当てることにしたのか不思議に思うかもしれません。その主な理由は、インドネシアの政治学者や安全保障学者は一般に紛争を短期間で観察し、和平合意が成立すると関心が他の紛争地域に移ったためです。その結果、紛争後の政治的発展は今日まで徹底的に研究されておらず、なぜそこで平和が維持されているのか、どのような教訓が得られるのかなどの重要な問題は、この学問ではほとんど無視されています。

さらに、インドネシアにおける平和構築研究の主流は、紛争後数年間を観察することによってのみ平和への取り組みの影響を評価する傾向があります。表面的な制度上の変化を超えた、より深い影響を理解したい場合、そのような短期的な視点は必ずしも役立つとは限りません。私の以前の研究では、平和構築の政治の長期分析に採用され、地域における持続的な平和の実験的な性質を解明することを目的としていました。復興支援、地方自治、民主的選挙などの紛争後の取り組みはすべて、地方政治の安定と平和に貢献したと一般に理解されています。

しかし、私は、紛争後の地域に良い統治をもたらすことが期待されるこれらの取り組みの意図された影響のためではなく、新たに台頭した地元の政治エリートが政治経済的搾取を奨励する意図せぬ影響のためと主張します。紛争後の時代に利用可能な機会を提供し、これらの既得権益を効果的に維持するためにエリート内のパワーバランスを維持するために。言い換えれば、平和は良い統治を犠牲にして維持されるのです。「平和を売りに出す」という言葉は、紛争後の地域のこうした皮肉を表すのに最適な言葉であると理解されるべきです。

この論文に基づいて、私は紛争後の政治的発展についての議論を展開しようとしています。私は現在、「紛争後のインドネシアの政治再建：平和を維持するコスト」というタイトルの書籍プロジェクトに取り組んでいます。

非自由主義的な平和構築に関する研究は、インドネシアに関しては限られています。これはおそらく、安全保障学者が考慮すべき要素が数多くある紛争後の国内政治に重点を置いているためでしょう。しかし、地方レベルでは、地方の政治エリートがどのようにして出現し、彼らが混乱の中で生じた政治経済的機会をどのように掴んだのかを調査することができます。

この本のプロジェクトは、日和見主義の坩堝の中で築かれた平和と安定という、不安な現実を明らかにします。この本は私の博士論文での議論に基づいており、ポソやアチェなどのさらに不安定な場所に焦点を当て、議論を国家レベルに拡張することを目的としています。

(2022年11月11日原稿受理)

博士録 64 第 22 号から国際学部、国際学研究科に係る同窓生に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

知究人 37 第 9 号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。

海外だより 34 第 27 号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。今回は初めて英日併記を試みました。

「Following in Sensei's Footsteps: Doing Your Best in Work and Everyday Life」

AZALIA BINTI ZAHARUDDIN

Dear readers, my name is Azalia Zaharuddin and I graduated with my Ph. D from the Graduate School of International Studies, Utsunomiya University in March 2021, under the supervision of Professor Kazutaka Sasaki. It has been nearly three years since I have graduated from U-Dai. I am currently working at Universiti Sains Islam Malaysia (マレーシアイスラム科学大学), also known as USIM here in Malaysia.

Universiti Sains Islam Malaysia (USIM) is a public university established in 1998 in the state of Nilai, Negeri Sembilan. It focuses on integrating Islamic studies with various fields of knowledge such as science, humanities, medicine, and social sciences. The university offers a range of undergraduate and postgraduate programs, conducts research in various disciplines, and emphasizes the application of Islamic principles in modern contexts. It is known for its commitment to nurturing a holistic educational experience that combines academic excellence with moral and ethical values rooted in Islam. There are nine faculties in the university, and I am currently teaching Japanese at the Faculty of Major Language Studies.

The Faculty of Major Language Studies offers French, Mandarin and Japanese as elective subjects. It is also home to our very own Japanese Language and Cultural Centre (JLCC). This centre was established in 2016 and officiated by the Ambassador of Japan to Malaysia at the time, His Excellency Dr Makio Miyagawa. JLCC has since then hosted several events, including carnivals, and seminars which promote Japanese language and culture to students. These included a lecture by His Excellency Katsuhiko Takahashi, Ambassador of Japan to Malaysia in late October 2022.

When I first started working as a lecturer, it was very difficult for me to juggle between teaching and research. There were so many things to prepare, exam papers to mark and assignments to review. My research fell behind and it was a while since I had written a paper. It was at this time that I thought back to Professor Sasaki, and his

dedication to his work. I remember that when I was his student, despite being extremely busy with his duties as the dean at the time, he always made time to work on his research. He set a good example for me, a mere Ph. D student at the time, about good work ethics, responsibility, and dedication. It took some time, but I managed to settle into my position and soon enough I managed to get my research back on track, presenting at conferences and publishing in journals again. To top it all off, in late 2022, I was appointed as the head of JLCC.

Although I have been given different responsibilities at my university, I have yet to supervise my own postgraduate student. However, when the time comes, I am determined to follow in the footsteps of Professor Sasaki. I attended his retirement lecture earlier in March this year and it brought back fond memories of the times spent during his zemi. I hope that I will be able to create the same thoughtful atmosphere with my students too one day.

Life has taken many different turns for me since graduating from Utsunomiya University, but I will always remember the lessons and experience that I have learned during my time there. I would not be where I am today without going through the journey at U-Dai. My best wishes to all the readers and I hope to see more of U-Dai alumni around the world.

「先生の足跡を追って：仕事と日常生活でベストを尽くす」

アザリア・ビンティ・ザハルディン

親愛なる読者の皆様、私の名前はアザリア・ザハルディンで、2021年3月に宇都宮大学大学院国際学研究科で博士号を取得しました。私の指導教員は佐々木一隆教授でした。宇大（宇都宮大学）を修了してからほぼ3年が経ちました。現在、私はマレーシアの Universiti Sains Islam Malaysia（マレーシアイスラム科学大学、略称：USIM）で働いています。

マレーシアイスラム科学大学（USIM）は1998年にニライ州、ヌグリ・センビランに設立された公立大学です。イスラム研究を科学、人文学、医学、社会科学などさまざまな分野と統合しています。大学は学部および大学院プログラムを提供し、様々な分野で研究を行い、現代の文脈でイスラムの原理を適用することを強調しています。同大学は学術的な卓越性を倫理的で道徳的な価値観と結びつけ、イスラムに根ざした包括的な教育体験を提供することで知られています。大学には9つの学部があり、私は現在、言語学部で日本語を教えています。

言語学部では、フランス語、中国語、日本語が選択科目として提供されています。また、私たち独自の日本語言語文化センター（JLCC）も所在しています。このセンターは2016年に設立され、当時の日本のマレーシア大使である宮川眞喜雄氏によって正式に開所され

ました。JLCC はその後も様々なイベントを主催し、学生たちに日本語と文化を紹介してきました。これには 2022 年 10 月下旬に行われた日本のマレーシア大使、高橋克彦氏による講義も含まれています。

講師として最初に働き始めたとき、教育と研究の両立は非常に難しいものでした。準備しなければならないことがたくさんあり、試験の答案を採点し、課題を論評する作業もありました。研究は遅れ、論文を書いている期間が続きました。その時、佐々木先生と先生の仕事への献身ぶりを思い出しました。先生は当時学部長・研究科長として非常に忙しかつたにもかかわらず、常に研究に時間を割いていました。先生は私にとって、当時の博士課程の学生として、良い職業倫理、責任感、献身の良い例を示してくれました。しばらくの間かかりましたが、私は自分のポジションに落ち着き、すぐに再び学会で発表し、ジャーナルに論文を発表できるようになりました。そして、2022 年末には JLCC のセンター長に任命されました。

大学でさまざまな責任を与えられていますが、まだ自分の大学院生を指導したことはありません。しかし、その時が来たら、私は佐々木先生の足跡に続く決意を持っています。今年 3 月には先生の最終講義に出席し、ゼミで過ごした時代の思い出が蘇りました。いつか私も学生たちと同様の思慮深い雰囲気を作り出せることを願っています。

宇都宮大学を修了してから私の人生はさまざまな方向に進んできましたが、そこで学んだ教訓と経験をいつまでも忘れません。宇大での旅を経験しなければ、今の私はありませんでした。全ての読者に最良の祈りを送り、世界中で宇大の卒業生・修了生にもっと会えることを願っています。

(国際学研究科 博士後期課程 国際学研究専攻 第 12 期修了生)

(2022 年 11 月 30 日原稿受理)

編集者注：キャンパス・バーチャルツアー ([USIM VIRTUAL CAMPUS TOURS](#))

海外留学今昔 32 第 35 号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者および海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 23 知求会ニュース第 41 号より現役学部生・院生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

キャリア指南 15 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2023 年の師走を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦労しています。)

今回は執筆者が確保できませんでした。

東南アジア支部だより

第 63 号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん（国際学部社会学科第 1 期生・国際学研究科国際社会研究専攻第 1 期生）が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019 年 4 月から、年 4 回から年 2 回発行（4 月 1 日、9 月 1 日）の変更になりました。

EU 支部だより

知求会ニュース第 38 号からイタリア在住の**松原真実子**さんによる知求会 EU 支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の 48 号の内容は、1. イタリア・ベネチア 来年から試験的に入場料徴収へ オーバーツーリズム 2. EU 支部だより —オーバーツーリズム—です。

編集者のひとりごと

●昨今の生成 AI の発展には目を見張るものがあります。先日、図書館から『ChatGPT 翻訳術 新 AI 時代の超英語スキルブック』山田優著 アルク発行 2023 を借り、すぐさま通読しました。まさに、新時代にふさわしい翻訳術と感心しました。今回、初めて英日併記を試みました。オープン AI 社の Chat GPT3.5 で翻訳をしました。翻訳は瞬時に行われました。下訳として十分に活用できることを実感しました。ただし、「プロンプト」という指示が重要なことはもちろんです。翻訳されたものを見極める素養も併せて肝要だと思えます。今後数をこなして、さらにスキルを磨いていきたいですね。

●本年、5 月中旬から隣県の群馬県中部教育事務所で仕事をしています。平日は前橋市内のシェアハウスで宿泊し、前橋市・吉岡町の小中学校を巡回しています。来年は榛東村・渋川市の巡回予定です。主な業務は、教育 DX の推進をアシストすることです。各自治体の教育委員会の方針や学校の要望に対処する日々を過ごしています。週末は 100 km 離れた（宇都宮と上野間の距離に近い）宇都宮市の自宅に戻る二重生活を過ごしています。

さて、知求会ニュースも、無事 22 年目を配信することができました。これまでの原稿執筆者の皆様、本当にありがとうございます。Season's Greetings! 皆様、よいお年をお迎え下さい。

編集後記：2010 年 4 月 26 日から 知求会ニュースのバックナンバーは 国際学部同窓会 HP (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっていきます。

同窓会会員の皆様へのお願い：住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。 chikyukai@gmail.com

宇都宮大学大学院国際学研究科同窓会